令和 7 年度 第 5 回　第 6 期香美市まちづくり委員会

日時：令和 8 年 2 月 16 日（月） 18 時 30 分～20 時 30 分
場所：香美市役所　3 階会議室
出席者： まちづくり委員 11 名　事務局(企画財政課)3 名
欠席者：5 名

1. 議事内容

議題 1　基本構想について

資料：基本構想（案）

これまでのまちづくり委員会での意見を基に策定した、基本理念や将来目標について資料を用いて説明。

【意見交換】

①基本理念の説明の順番について

・基本理念の説明の順番については、現在の案（「快適性・利便性」を先に説明し、最後に「人と自然に寄り添いながら」で締める形）で良い。快適性や利便性が最も重要であり、それを実現する上での「条件」として自然との共生を最後に持ってくる方が、議論の経緯とも合致し、しっくりくると感じる。

・この基本理念の策定の経緯を知らない住民目線で考えると、前から順番に説明する方が自然と感じる。

・読み手が「なぜこの順番なのか」と疑問を持った時に、「この地域ではこちらを強調したいのだな」と裏側にある意図を読み取ってもらえるような現在の構成は、個人的に好ましく感じます。

・レイアウトの調整が可能であれば、順序が逆でも伝わる形にできると考える。

②「追求」という表現について

・皆で目標に向かって進むという意志を示す意味では、違和感はない。「目指す」よりも力強い印象で、基本理念には適している。

・理念の上部に「人と自然に寄り添いながら」という補完的な文章があるため、下の項目は強い言葉で引き締めた方がバランス良いかと考える。

③将来都市像について

・2 段落目の記述について、「本市は」という主語で括ってしまうと、市全体の問題として捉えられるが、実際には地域ごとに状況が異なる。また、現在の表現だと事実関係に若干の相違が生じることから、削除してはどうか。

・「過疎化と人口減少」という表現がありましたが、「過疎」と「人口減少」は意味が重複しています。現在の社会情勢を鑑みると「少子高齢化」とする方が適切ではないでしょうか。

・人口減少そのものを止めることは難しくても、その影響を最小限に抑え、暮らしやすい街を作っていく。その結果として、社会増（転入増）や地価の安定に繋がれば理想的です。

・3段落目については、シンプルに「持続可能な社会の実現を図るため、基本理念に基づき、本市は次の将来都市像を目指します」としてはどうか。

議題2　市民アンケートの結果について

資料：　アンケート概要

HP「地域幸福度 Well-Being 指標　ダッシュボード」

URL: https://well-being.digital.go.jp/dashboard/

市民、工科大学生、小中学生に向けたアンケート結果について説明。また、本市のアンケート結果が反映されたWell－Being指標について説明。

議題3　その他

今後まちづくり委員会で協議したい事項について

・以前のまちづくり委員会では、委員が熱心に議論し、具体的な提言をまとめましたが、各担当課からは「予算がない」「できない」という回答ばかりで、結果的に何も実現しなかったということがあった。

・広報誌をデジタル化（LINE等）し、紙での配布を減らす取り組みはどうか。

・自身の地域では、広報誌に「自分なりの一言」を添えて回覧することで、住民の関心を高める工夫をしている。行政の情報をどう「自分事」として捉えてもらうかが重要である。

・住民サービスに関する業務の課題について、担当課を呼んで、まちづくり委員会で、課題解決に向けた意見交換を行うのはどうか。